

授業者、遠隔システムの状況

つくばみらい市立伊奈東小学校（配信校）

専門人材 野澤 愛 先生



- ▶ 特別免許状（小学校・中学校英語科）を授与
- ▶ 配信校の英語専科教諭として勤務
- ▶ 遠隔授業の取組 3年目



つくばみらい市立伊奈東中学校第1学年（受信校）

4技能において課題はあるが、英語が好きで積極的にコミュニケーションをする生徒12名



柴崎 奈津子 先生（音楽科免許状）

遠隔教育特例校制度の活用



アドバンスクラス



スタンダードクラス

受信校の英語科の中心となり、配信校の授業者と進度や評価などについて打合せを実施。

高野 龍太先生



授業の計画 中学校第1学年 外国語  
単元名「Unit9 Think Globally, Act Locally」

時	学習内容	形態		遠隔授業における工夫や課題、解決策 (1人1台の端末の利活用も含む。使用OS: IOS)
		対面	遠隔	
1	・ゴミ分別ポスターのキャッチフレーズを作ることができる。/I want(need, try) to ~.		○	○Padletを使って、課題を各自の端末に送信、提示し、課題を把握することができた。
2	・ゴミの分別について説明することができる。		○	○Flipを使用し動画撮影をすることができた。
3	・つくばみらい市の写真を使って、様子を伝えることができる。/It looks~. They look ~.		○	○Keynoteに写真を取り込み資料を作成することができた。
4	・市内在住の外国人にゴミの分別の仕方について説明することができる。	○		○YouTubeでTEDtalkを視聴し、より良い伝え方について考えることができた。
5	・聞き手に分かりやすく説明することができる。		○	○Zoomを使用し海外の学校と、ゴミの分別について説明したり、たずねたりすることができた。
6	・より多くの人に、ゴミの分別の仕方を分かりやすく説明することができる。		○	○Google Classroom機能を使って、授業者が生徒に発表内容について個別指導することができた。
7	・海外の生徒にゴミの分別の仕方を説明することができる。	○		○振り返りをシラバスに記入しPadletで共有することができた。
8	・つくばみらい市在住の外国人の方々にゴミの分別動画を作ることができる。		○	●話すことの言語活動で、生徒の状況を正確に見取ることが課題。 →個別に使用できる回線を活用したり、T2との連携を深めることで生徒の状況をより詳しくリアルタイムに共有する。
9	・ゴミの分別についてのFAQを書くことができる。	○		

# 遠隔授業記録



ペアで相互に発表



端末で課題等の授受



ペアごとに画面越しで指導



配信側から指導

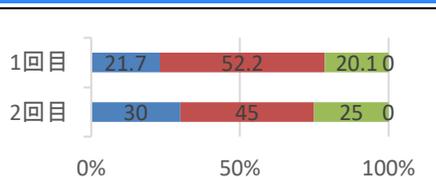
## アンケート結果

生徒

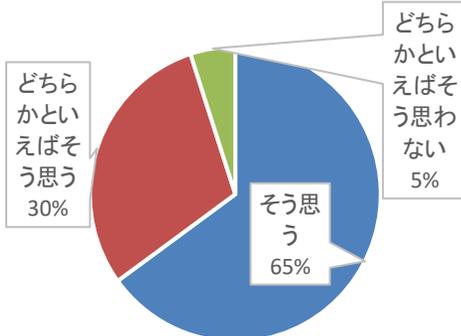
- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない

・70%を超える生徒が配信側の先生の会話はスムーズであったと答えている。

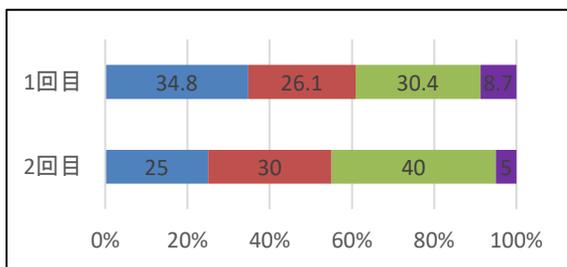
配信側の先生の会話はスムーズでしたか。



考えたり、話し合ったりしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができましたか。



配信側の先生が教室にいて授業をしているような感じがしましたか。



・50%を超える生徒が配信側の先生が教室にいて授業をしているような感じがしたと答えている。

児童の振り返り

「先生にたよらないで学べた」「自分で考えることが多くなった。」  
 「スムーズに授業が進んだ」「コロナ対策になった」「先生と対面で授業をした方が楽しい。」「今日はいつもより音割れなどが多かった」

## アンケートや年間を通しての考察

### 成果

○単元の目標を生徒と共有し、何のために、どういったことを、どのように身につけるか共有することで、主体的に学ぶ意欲をはぐくむことができた。

○「中学校1年生が小学生6年生に、中学校生活についてプレゼンする」や「台湾との学校と調べたことを伝え合う」など、言語活動を充実させることで、学習が意義深いものとなった。

○Padletを用いて、児童生徒がノートやワークシートに記入したものを教師に送信し、教師がフィードバックを返して指導に生かすことができた。

### 英検IBA結果における比較

R4 アドバンスクラス生徒と県平均との比較	+
R4 アドバンスクラス生徒と学年平均との比較	+144

### 課題と対応案

●音声や画像の不具合があった。  
 →本時の学習の目標や流れを、生徒と共に考えることで、課題に主体的に取り組む態度を育成し、不具合があったときも、自分達で何をすべきか考え、自律して学習に臨む姿勢を育んだ。

●対話的に授業を進めようと心がけているが、対面授業と比較すると全員が話し出した際にこちらからの指示が通りにくいという課題がある。  
 →受信側の教員との連携をとり、配信側の教員がどのようなときに、どんな支援が必要かを共有することで、生徒の自律的な学びを促す学習を実践した。